

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	幸区第1グループ(南河原・幸・下平間)	評価対象年度	平成25年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	こども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	幸区こども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 南河原こども文化センター ①年間延べ利用者数 38,158人 ②年間延べ利用団体数 846団体</p> <p>2 南河原小学校わくわくプラザ ①登録者数 178人 ②年間延べ利用者数 9,326人</p> <p>3 幸町小学校わくわくプラザ ①登録者数 249人 ②年間延べ利用者数 15,368人</p> <p>1 幸こども文化センター ①年間延べ利用者数 34,926人 ②年間延べ利用団体数 382団体</p> <p>2 戸手小学校わくわくプラザ ①登録者数 467人 ②年間延べ利用者数 27,739人</p> <p>3 御幸小学校わくわくプラザ ①登録者数 392人 ②年間延べ利用者数 24,036人</p> <p>4 西御幸小学校わくわくプラザ ①登録者数 149人 ②年間延べ利用者数 9,340人</p> <p>1 下平間こども文化センター ①年間延べ利用者数 26,685人 ②年間延べ利用団体数 490団体</p> <p>2 下平間小学校わくわくプラザ ①登録者数 278人 ②年間延べ利用者数 16,204人</p> <p>3 古市場小学校わくわくプラザ ①登録者数 172人 ②年間延べ利用者数 9,772人</p> <p>4 古川小学校わくわくプラザ ①登録者数 360人 ②年間延べ利用者数 19,854人</p>
収支実績	<p style="text-align: center;">単位:円</p> <p>1 収入 指定管理料 174,759,877</p> <p>2 支出 人件費 158,762,005 事業費 10,527,886 事務費 12,540,164 その他経費 141,510 合計 181,971,565</p> <p>3 差引 -7,211,688</p>
サービス向上の取組	各種アンケート、意見箱、日常的なコミュニケーションにより、利用者のニーズを把握し、イベント内容や遊具等の購入など、事業活動に反映。事業者のスケールメリットを活かし、施設整備、交流事業等を実施。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
<p>(評価の理由) 幸区合同行事として命のメカニズム、不思議さを学ぶ「いのちのおはなしワークショップ」、職業体験を通じて社会のしくみを学ぶ「さいわいキッズシティ」、グループ事業として、利用児童の発想から南河原公園を無人島に見立てたスポーツ活動事業「はっぴーウォーカー無人島で大冒険」、横浜市こども自然公園野外活動センターで実施した一泊二日の「はっぴーきゃんぷ」のほか、日ごろの活動の成果を発表する「はっぴーらいふ」、「館対抗ドッジボール大会」、各館では季節ごとの多数のイベントを実施。各イベントは、運営協議会や地域の方々、多くの中高生のボランティアと協働して実施し、世代間交流、異年齢交流、地域の結びつきを深めるなど充実した内容であった。また、各館とも乳幼児事業を定期的実施するなど力を入れており、乳幼児親子の利用者数も安定してきている。</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・ 会計手続 効率的・効果的な 支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
<p>(評価の理由) 会計処理及び金銭管理について適切に行われている。全20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを生かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品・備品の一括購入等の取組みによる経費削減を図るとともに、その剰余金を児童用図書、遊具、遮光・防炎カーテン、飛散防止フィルム等の備品購入や施設の整備・修繕による環境整備に充て、利用者に還元している。</p>					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	3	3
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	子ども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	3	6
(評価の理由) 毎月のお便りやパンフレットや中高生向けに広報を作成し、HP掲載や関係機関に配布するなど、子ども文化センターの施設や事業を積極的に広報している。特別な配慮を要する利用者については、保護者や学校等の関係機関と情報交換を密に行い、個別の対応についての理解を深め、職員のスキルアップを図り、児童の人権を尊重しつつ適切な対応を行い、各事業への参加なども含め、安全安心な居場所を提供している。子ども文化センター運営協議会、子ども運営会議、保護者懇談会の定期的な開催だけでなく、利用団体、地域ボランティア、館内の意見箱の意見などから、児童・保護者・地域の方々の意見や要望を収集し事業・施設運営に反映させている。また、各学校、行政機関、社会福祉協議会、PTA、幸区地域教育会議、南河原中学校区・御幸中学校区・塚越中学校区の各地域教育会議等と連携し、地域の青少年に係る情報共有を図り、子どもの安全を守る意識を高めつつ、各機関と協力して様々な事業を実施しているほか、市環境局と連携して南河原子ども文化センターにある地中熱空調システムの管理や見学者の受け入れを行っている。特に幸区子ども支援室と協働し、父親の育児参加を促すため、幸区第1グループ内3か所の子ども文化センターの土曜日開所を活用し、子育て支援講座(パパッとサタデー)を毎月1回開催し、地域の子育て支援に貢献している。					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		子ども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	3	6
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
(評価の理由) 子ども文化センター及びわくわくプラザ共に、適正な職員配置がされており、特別な支援を必要とする児童については適宜スタッフの配置を行い円滑な事業運営が行われている。市主催の研修にも積極的に参加しており、財団、区、グループ、各館で必要とされる研修を企画・実施し、受講した研修の報告場を設け情報の共有化を図るなど、職員全体のスキルアップを図っている。個人情報等の取扱については、適正に管理しており情報漏えい及び紛失等の事実はなかった。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか					
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
(評価の理由) 施設の日常点検、設備の保守点検、備品管理等を適切に実施し、必要な補修工事を適宜に実施している。安全点検マニュアルや事故対応マニュアルを作成し、事故防止及び感染症予防等の衛生管理に適切に取り組んでおり、食中毒等の事故はなかった。消防設備点検、消防避難訓練を実施し、災害対応マニュアルを作成し、職員に周知している。アレルギーをもつ児童にも対応できる米粉乾パンを含めた非常食等の補充や子ども文化センターに24年度に設置した発電機の試運転、防災用品の確認を実施するとともに、子ども文化センター、わくわくプラザの避難経路や外に面した窓に飛散防止フィルムを設置するなど、災害時対応、防災体制の強化に努めている。					

4. 総合評価

評価点合計	65	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

長年、子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わった経験を活かし、学校、地域、行政等と連携し、安定した施設運営を実施している。また、全20グループ、53施設の指定管理者としてのスケールメリットを活かし、全市、区、グループでの合同事業を実施するとともに、予算の一元管理により施設ごとに偏りのないサービスを提供しつつ、経費節減を図り、その効果を備品の充実や施設の環境整備・改善を図りサービス向上に努めている。

特に、アレルギーをもつ児童にも対応できる米粉乾パンを含めた非常食等の補充や窓に飛散防止フィルムを設置など利用者の安全確保に配慮した防災対策に力を入れている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、子ども文化センター及びわくわくプラザが地域に根付いた安全で安心な施設となるよう環境整備や職員のスキルの向上に努め、利用者にとって居心地のよい場となるよう努めていただきたい。